

令和5年度第三者評価 改善状況報告書

令和6年3月31日

施設名	港区立芝高齢者在宅サービスセンター（認知症対応型通所介護）	施設所管課	保健福祉支援部 高齢者支援課
所在地	港区芝3-24-5	指定管理者	医療法人財団 百葉の会

改善すべき指摘内容等	対応事業者 (共同事業者の場合記入)	令和6年3月までの改善状況等 (指定管理者記入欄)	令和6年4月以降の取組予定 (指定管理者記入欄)	所管課確認欄 (施設所管課記入欄)
事業所では「芝デイに行きたい!」と思える魅力の発信」というスローガンを掲げ、平均稼働率の維持に取り組んできた。①新規居宅介護支援事業所への情報提供、②既存居宅介護支援事業所との連携、③こまめな連絡、方法・仕方の工夫等により成果につながっている。今後は、現在実施している、①アンケート調査と広報活動に力を入れる、②ケア取り組み状況の発信、③レクリエーションメニューを刷新し魅力あるものにしていく等の取り組みのブラッシュアップを図り、さらなる成果につなげ、より多くの人に事業所を利用してもらうことが望ましい。		芝高齢者相談センター認知デイサービスでは、より地域住民との身近で馴染みのある存在としての認識をいただけるよう、職員一同の視点の改めでの統一化、また居宅介護支援事業所および地域包括支援センターとの連携の再強化に向けて、企画会議などを実施してきた。具体的には以下の通りである。 ①ご利用者様にお聞きする「興味関心シート」の再調査と「意欲向上に向けた社会参加の希望調査」など聞き取り調査を実施した。 ②上記①のデータを分析し、③の活動をもとに、レクリエーション内容の企画を行い、試行的に実施したものをデイ広報紙「芝レター」の発信を継続して行い、モニタリングを実施した。 ③新しいイベントやレク内容を変更し、そのモニタリングを実施した。	前年度の検討をもとに、新しいイベントや企画を引き続き継続し、また興味関心シートの更新、聞き取り調査を重ねていくことを準備している。利用者様の意向を汲み取り、新しい企画を柔軟に取り入れていく。 その企画予定の情報発信、および報告書の共有により、「芝デイサービスに行ってみよう」をより住民の興味を惹きつける広報を行うため、①広報会議の充実と施設全体で取り組む拡大会議の実施、②日頃の様子情報発信の機会を増やす（ブログ、広報紙の回数を増やす）、特に認知症対応型フロアとして、利用者家族へ様子の報告をするためのお便りの作成をする、③新しい企画、レクの更新の継続を実践していく。	アンケート調査の内容を踏まえて、事業内容の見直しを継続し、積極的に発信することで事業実績の増加につなげるよう、指導していく。
事業所では、利用者のその日の状態や気づいたこと等を詳細にケース日誌に記載している。しかし、利用者ファイルの経過記録にも重複する内容を記載する必要があり、事務処理に時間を要するため、コピーし、切り貼りがされている。こうした作業について、ICT化を図ることによって、作業効率を向上させるとともに、データの蓄積が可能となり、エビデンスに基づく介護サービス提供につながっていくと思われる。今後、事業所におけるICTの導入等、事業作業の効率化について検討を進めていくことが望ましい。		指摘内容については、当センターに留まらず、法人内同サービス事業（芝・虎ノ門・台場）との内部連携にも効果があると考え、共に検討会議を開催してきた。昨年度、行政より展開されていた「介護ロボット導入補助金制度」の活用に向けて、年度末までに「記録ソフト連動のインカム等」の導入準備を進めたが、施設意向と規模に沿った機器の導入が叶わず、新年度へ見送ることになった。	昨年度からの協議を活かし、引き続き「記録ソフト連動のインカム等」の導入準備を進めていき、補助金を活用し、導入を実施したいと考えている。 それにより、事業の効率化、データ分析の展開を行うことで、安定的なサービス提供の実現していく。	各種補助金等を活用してICT化を進めるとともに、業務手順の見直しも継続するよう、指導していく。
職員育成や研修に関して、事業計画書の中で重要課題として取り組んでいる。職員も積極的に参加しており、研修報告も随時行われている。一方、職員アンケートの結果からは、振り返りや全体への通達、情報共有に関する改善の意見が挙がっている。また、認知症ケアに対する職員の専門性向上への指摘も見受けられた。今後は、職員の経験年数や知識を精査した上で、職員各自に必要な研修や講習会への参加を促し、職員の資質向上や、より良い利用者支援につなげていくことが望ましい。様々な学びを、更なる質の向上につなげていくことが望ましい。		職員研修について、3月までに実施できる研修については積極的に参加してきた。 また、新年度に向けた研修の在り方について、リーダー会議での協議、職員会議での周知により、次年度に向けてのスキルアップ向上の準備を進めていく。	新年度は、法人内部で昨年度より実施されている「リーダー研修」への初級リーダー・中級リーダー・上級リーダー・管理者研修へ、各階層別研修に参加するなど、年間スケジュールを確保し、また内部研修や法定研修のため、新年度に新たに「研修担当」を配置し、施設全体のスキルアップに向けて整備し、実践していく。	これまでの職員育成に対する姿勢を継続しつつ、その内容についても精査し、質の向上を図るよう指導していく。